

品川区DX推進基本方針の改定について

企画経営部
デジタル推進課

品川区DX推進基本方針の改定

1. パブリックコメントの実施結果について

- ① 実施期間：令和7年2月1日（土）～2月28日（金）
- ② 応募方法：区ホームページ、郵送、持参、FAX
- ③ 意見数：延べ18件（6名より）
- ④ 寄せられたご意見と区の考え方 ※資料「04_DX推進基本方針パブリックコメント～ご意見と区の考え方～」参照

＜主なご意見（要約）＞

- ・ 区ホームページが見つらく、必要な情報が見つけない。DX推進の第一歩として区ホームページを見直していただきたい。
- ・ 区が持っているデータをオープンデータ化して区民が容易にアクセスし生活や活動に役立てられるようにして頂きたい。
- ・ 品川区DX推進基本方針は、普段、デジタル機器やIT環境にない人たちから、おおむね区がどのような方針をもってDXに取り組もうとしているかを理解する上で、わかりやすい内容となっていると思う。
- ・ 定量的に評価がなされれば、必要な予算付けの根拠にもなり、区内のDX化が進み見やすくなるのではないかと思う。

2. 計画の内容

- ・品川区DX推進基本方針 ※資料「02_品川区DX推進基本方針」参照

3. 今後の予定

- ・令和7年6月11日（水） 公表（広報しながら、区ホームページ）



品川区 DX推進基本方針 2025（しながわDX）

2025（令和7）年5月

目次

01. はじめに

02. 将来像と実現に向けた基本方針

03. 推進に向けて

参考：本基本方針の位置づけと策定経緯

Well-being Cityしながわへ。

品川区は
DX（デジタルトランスフォーメーション）を通して
Well-Beingを実感できる都市を目指します。
DXで、しながわの暮らしを、一歩先に。

01. はじめに

基本方針策定の背景

人口減少社会と担い手不足への対応

少子高齢化が進行する中で、今後、生産年齢人口の減少と労働力不足が一層深刻化することが予想されています。このような状況では、従来の運営体制では行政サービスの維持が困難であり、業務の効率化やデジタル技術を活用した行政サービス提供の仕組みが必要です。



サービスレベルの向上と負担軽減

行政サービスの質を向上させるためには、デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進が欠かせません。DXにより、デジタル技術を用いた効率的な業務プロセスと利便性の高いサービス提供を実現し、区民が安心して利用できるサービス環境を整備する必要があります。



利用者起点でのサービス改革の必要性

区民の多様なニーズに応える利用者起点の行政手続やサービス提供が求められています。そのためにも従来の縦割りの行政から脱却し、区民にとって分かりやすく、利便性が高いサービスへと改革する必要があります。



DXの着実な推進のための方針策定

DX推進は一朝一夕に実現できるものではなく、継続的な取組が不可欠です。そのため、区としての方針を明確に定め、関係者間で共通認識を持ちながら、着実に推進していく必要があります。



02. 将来像と実現に向けた基本方針

3つの視点によるアプローチと将来像

区民に寄り添う区を実現するには、行政サービスの質の向上だけでなく、行政運営の効率化と地域の連携が必要不可欠です。
そこで本区では、サービス・地域・シゴト（行政）の3つの視点からアプローチを行い、DXによって将来像の実現をめざします。

① サービスDX



将来像

便利・快適・親切な行政サービスを
実感できるしながわ

② 地域DX



将来像

誰もが魅力・活力・安心を
感じられるしながわ

③ シゴトDX (行政)



将来像

徹底した業務改革による
創造・行動中心の行政

02. 将来像と実現に向けた基本方針

サービスDXによる将来像実現に向けた基本方針

将来像

便利・快適・親切的な行政サービスを
実感できるしながわ

多様な区民ニーズに沿った、区民目線でデザインされた便利で快適に使える行政サービスが提供されています。また、区役所や区施設では、対面ならではの区民に寄り添った行政サービスが提供されています。

—サービスDXの将来像の実現に向けた3つの基本方針—

どこからでも簡単にサービスを
利用できる環境を整えます

証明書発行や各種申請・届出等の行政手続きを時間や場所に制約されずに利用できるよう、オンライン申請を拡大し、利便性を高めます。また、来庁不要の相談体制を強化することで、区民に寄り添ったサポートを推進します。



わかりやすく、利用しやすい
スムーズな窓口を提供します

窓口での手続きをよりシンプルにし、待ち時間を減らすことで区民の負担を軽減します。区民目線でわかりやすく、利用しやすい窓口を実現します。また、新庁舎整備を通じて、対面でのきめ細やかなサポートを充実させ、区民にとって快適な窓口サービスを提供します。



必要な情報に簡単に
アクセスできる環境を整えます

区民のニーズやライフステージに応じて、必要な情報をタイムリーに提供します。これにより、行政サービスや重要な情報に快適にアクセスできる環境を整えます。また、区の保有する様々な情報の視認性を高め、区民が必要な情報に快適にアクセスできる環境を整えます。



02. 将来像と実現に向けた基本方針

地域DXによる将来像実現に向けた基本方針

将来像

誰もが魅力・活力・安心を感じられるしながわ

区民や官民等、地域に根差すさまざまな主体が連携して課題解決を図ることにより、一層、魅力的で活力のあるまちとなっています。さまざまな立場、環境にある区民誰もがデジタル技術の恩恵を受けられるまちとなっています。デジタル技術を使いこなす子ども達が、その力を開花させています。

— 地域DXの将来像の実現に向けた3つの基本方針 —

地域みんなのための課題解決を推進します

さまざまな立場、環境にある区民誰もが、デジタル技術の活用により恩恵が受けられるよう、サービスのユニバーサルデザイン化やデジタル技術活用に関する普及活動や環境整備を進めます。また、デジタル技術を活用し、多様な区民の意見を反映した区政を推進します。



デジタル活用により魅力的で安心安全なまちをつくります

データ活用、デジタル技術の活用により、官民が連携・参画して、地域の課題解決を図る取組や、効率的で計画的なまちづくりを推進します。また、防災情報等の収集・分析・伝達の仕組みを拡充し、安心安全なまちづくりを推進します。



未来のしながわを担う子どもたちを育みます

デジタル技術やデータを活用した効果的な教育を推進し、子どもたち一人ひとりの能力を開花させるとともに、内外との交流を進め、視野の広い、環境変化に対応できる未来のしながわを担う子どもたちを育みます。また、子どもたちが安心して活動できる環境や子育ての環境を充実します。



02. 将来像と実現に向けた基本方針

シゴト(行政)DXによる将来像実現に向けた基本方針

将来像

徹底した業務改革による 創造・行動中心の行政

最新のデジタル技術、データの徹底活用により、行政業務は常に見直され、効率化が図られるとともに、有効性の高い政策が立案、実施されています。職員は、職員でなければできない業務に注力することが可能となり、創造的で実効性の高い活動が業務の中心となっています。

— シゴト(行政)DXの将来像の実現に向けた3つの基本方針 —

AIやデジタルツール活用により内部事務の効率化、高度化を図ります

業務プロセスの見直し、業務フローの最適化等のアナログによる業務改善と、デジタルツールを組み合わせ、内部事務のBPR(Business Process Re-engineering)を推進します。また、AIを活用し業務効率化と業務精度の向上を実現します。これにより、時間とコストを削減し、職員がより創造的な業務に集中できる環境を整えます。



デジタルを有効活用できる人材育成と組織整備を推進します

職員がデジタル技術を効果的に活用し、変化に対応できるスキルを習得するための研修や学習機会を設けます。これによりDX推進の基盤となる人材を育成します。研修を受講した職員はコアメンバー(DXリーダー)となって取組をけん引し、多くの部局でDXが着実に進むことが期待できます。結果として、組織全体のデジタル・DXへの対応力が向上します。



データに基づく有効性の高い政策立案と事業検証を推進します(EBPM推進)

データに基づいた意思決定、事業検証による振り返りを行うことで、客観的かつ効果的な施策を立案し、推進します。またデータ活用研修による人材の育成を行うことで、区の現状・現場の実績やデータを活用した精度の高い行政運営を実現します。



EBPM : Evidence-Based Policy Making の略であり、統計や業務に係るデータなどの客観的な証拠に基づき政策立案をすること

03. 推進に向けて

施策の立案と推進の考え方

アクションプランの立案と推進

- 将来像の実現に向けて推進する具体的な施策を「アクションプラン」として定めます。
- 基本方針に沿った施策を横断的に可視化し全庁的にベクトルを合わせて効果的に施策を連携・推進します。
- 社会課題やニーズの変化に対応するため、施策の内容を定期的に見直し柔軟かつ迅速に推進します。

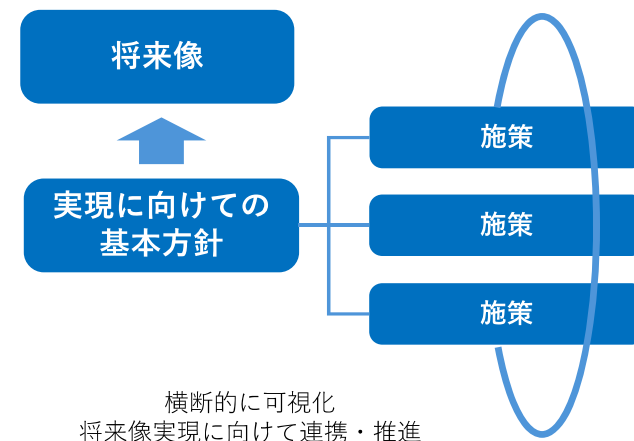
重点施策の立案と推進

- アクションプランに示す施策のうち、以下の観点から重要と考える施策を「重点施策」として位置づけ、特に注力して推進します。

重点施策 立案の観点

- 将来像実現に資する波及効果の大きい施策
- 庁内組織横断で取り組むべき施策
- 継続的な改善が必要な施策

- 重点施策については、評価指標を設定した上で、進捗と成果の見える化を図り、施策の着実な推進と成果の達成を目指します。



03. 推進に向けて

行動指針

本基本方針に基づく施策の推進、実行に当たっての行動指針を示します。

利用者視点

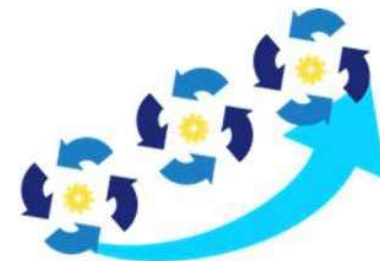
デジタル技術の活用では、「利用者視点」を第一に考え、区民の利便性向上を進めます。区民のニーズを把握し、直感的で分かりやすいUI（ユーザーインターフェース）を目指します。高齢者、障がい者や外国人を含むすべての区民が容易に利用できるよう、シンプルで見やすいデザインや音声ガイド機能の実装、多言語対応やモバイル最適化などにも配慮します。これにより、行政サービスへのアクセシビリティを高め、区民一人ひとりに真に価値あるサービスを提供し、満足度向上を目指します。

アジャイル

社会の急速な変化に対応するため、アジャイル型の手法を採用します。これにより、事業を早期に立ち上げ、柔軟かつ迅速に政策を実行できます。最小限の機能から始め、状況の変化やフィードバックに応じて軌道修正が可能となり、限られた資源を効率的に活用することにより、行政サービスの質を向上させつつ、社会のニーズにより早く、より適切に応えることを推進します。

官民共創

行政単独では解決困難な社会課題に対し、官民共創で取り組みます。行政と民間企業、学術機関、団体等が協働し、各々の強みを活かして新たな解決策を創出します。データ活用においても、官民の垣根を越えた連携を推進し、組織の境界を超えたデータの有機的な結合により、精度の高い分析と効果的な政策立案を実現します。これらの取組を通じ、EBPM（エビデンスに基づく政策立案）を推進し、効果的な行政サービスと持続可能な地域社会の実現を目指します。官民の知恵と資源を結集し、より大きな社会的価値を創出、複雑化する地域課題に柔軟に対応していきます。



アジャイル：ソフトウェア開発に由来する言葉で、ここでは小さな単位で素早く実行と改善を繰り返し、柔軟に変化に対応しながら目標を達成する方法を指します。

03. 推進に向けて

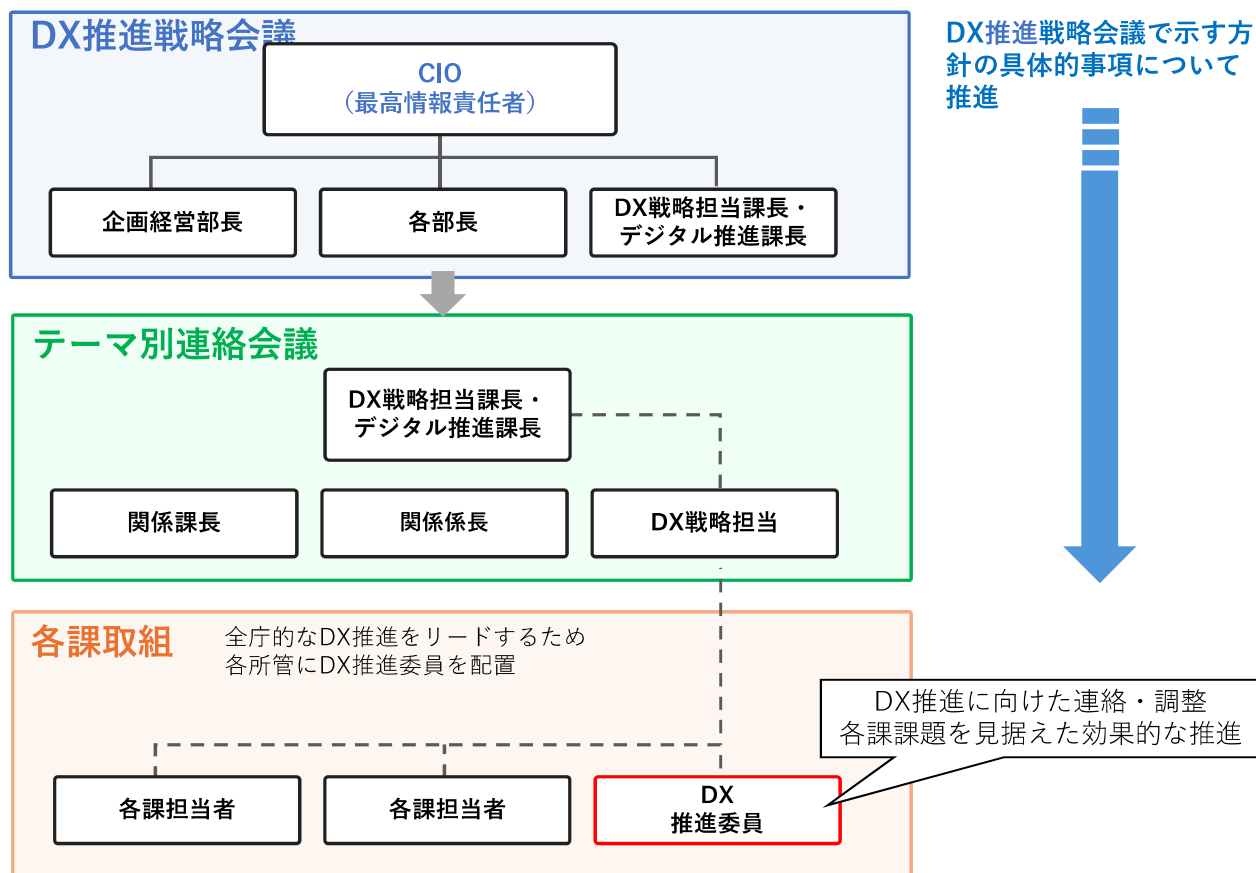
推進体制

品川区では、DX推進の司令塔として、CIO（最高情報責任者）をトップとした「DX推進戦略会議」を設置しています。

CIOを中心に全庁横断的なDX推進体制を整え、各部局の業務をDXの視点から総合調整し、PDCAサイクルを活用して計画的かつ強力に進めます。

また、「テーマ別連絡会議」を設け、各テーマに関するDXの取組を検討・管理・評価し、それを基に各部課が具体的な取組を実行していきます。

さらに、全庁的なDX推進をリードするため、各所管に「DX推進委員」を配置し、現場レベルでの取り組みを支援し、DXの浸透を促進します。

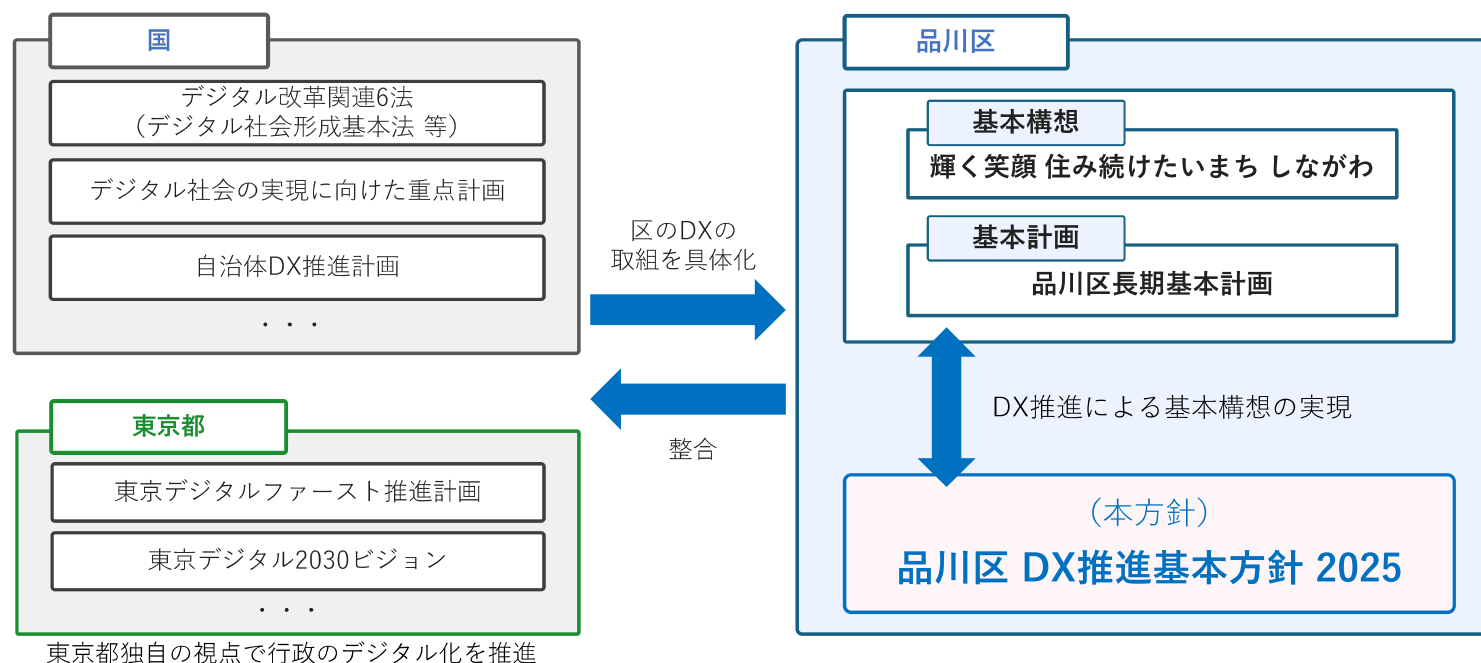


参考：本基本方針の位置づけと策定経緯

位置付け

本方針は品川区基本構想における区の将来像となる「**輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ**」を実現するため、**区のDX推進に関する取組方針を示す**ものです。

また、本方針は、目指すべきデジタル社会の実現に向けて、国が迅速かつ重点的に実施すべき施策を示した「デジタル社会の実現に向けた重点計画」（令和6年6月閣議決定）や、自治体が重点的に取り組むべき事項をまとめた「自治体DX推進計画」といった国の諸計画、さらには東京都のデジタル化・DXに関連する計画や方針とも整合を図りながら進めていきます。



参考：本基本方針の位置づけと策定経緯

計画期間

本方針の期間は、「品川区長期基本計画」と合わせて令和7年度（2025年度）から令和11年度（2029年度）までの5年間とします。前方針である「品川区DX推進基本方針」は令和4年度から令和7年度までを適用期間としていましたが、急速に変化する時代に対応するため、前倒しで全面的な刷新を行いました。

また、デジタル技術は日進月歩で進化しているため、計画期間中であっても時代の動向に応じて計画の見直しや改定を行い、施策の追加や更新を柔軟に進め、常に最新の状況を反映した内容とします。

年度	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
DX推進基本方針	前方針	前倒しで 全面刷新 ▲改定	▲必要に応じ改定		▲改定を想定		▲大きな改定を 想定 施策追加・更新
		本方針 品川区DX推進基本方針（しながわDX）					
				適宜施策追加・更新			
品川区長期計画	品川区長期基本計画						（次期計画）
品川区総合実施計画		（次期計画）					
区のイベント						▲庁舎移転	
国の方針	総務省 自治体DX推進計画	（次期DX推進計画等、関連する国の方針・計画）					

策定の経緯

- 令和6年 7月 — **庁内DX関連施策の調査**
庁内全課対象に、実施中もしくは実施予定のDX関連施策を調査。
- 7・8月 — **DX推進基本方針ビジョン検討WG開催**
未来のあるべき姿（ビジョン）を検討するため、品川区職員によるワーキンググループを立ち上げ、検討を実施。
- 12月 — **DX推進戦略会議**
庁内のDXに関連する最高意思決定会議である、DX推進戦略会議にて本基本方針について討議。
- 令和7年2月 — **パブリックコメントの実施**
パブリックコメントを実施し、区民の意見を募集。
- 4月 — **DX推進戦略会議**
DX推進戦略会議にて本基本方針について承認。

DX推進基本方針ビジョン検討WGの様様



ワーキンググループでは、3つの視点毎にグループに分かれ現状（As is）と理想（To be）に関するディスカッション、また現状と理想の間にある問題点について様々な切り口で議論が行われました。

DX推進基本方針の「将来像」は、ワーキンググループで出た意見を反映し、作成をしています。

The illustration depicts a diverse group of people in a community setting. At the top, there are several groups: a family with a man, woman, and two children; a woman walking alone; a couple standing together; a man pushing a stroller with a child inside, accompanied by a woman holding a baby; and a group of four people in business attire. The central part of the image is a solid blue horizontal band containing the title and date. Below this band, more people are shown: a man gesturing while talking to a woman; a woman holding the hands of two young children; a man and woman walking two small dogs; a person riding a bicycle; and a man in a suit standing alone on the far right.

品川区 DX推進基本方針アクションプラン2025

2025（令和7）年5月

目次

- 01. はじめに
- 02. 「サービスDX」 アクションプラン
- 03. 「地域DX」 アクションプラン
- 04. 「シゴトDX」 アクションプラン



Well-being City しながわへ。

品川区は

DX（デジタルトランスフォーメーション）を通して
Well-Beingを実感できる都市を目指します。

DXで、しながわの暮らしを、一歩先に。

01. はじめに

アクションプランの立案と推進

- 品川区DX推進基本方針の将来像実現に向けて推進する具体的な施策を「アクションプラン」として定めます。
- 基本方針に沿った施策を横断的に可視化し全庁的にベクトルを合わせて効果的に施策を連携・推進します。
- 社会課題やニーズの変化に対応するため、施策の内容を定期的に見直し柔軟かつ迅速に推進します。

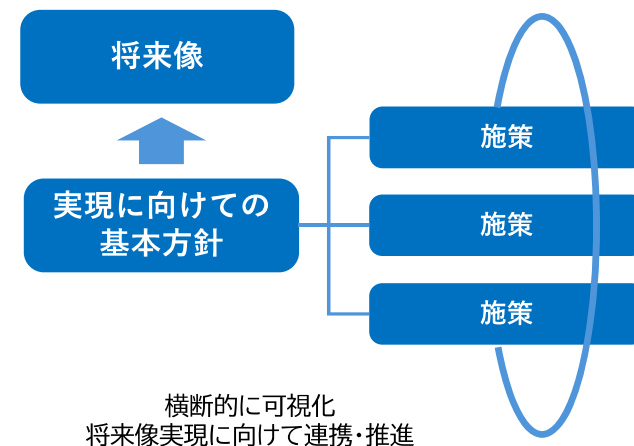
重点施策の立案と推進

- アクションプランに示す施策のうち、以下の観点から重要と考える施策を「重点施策」として位置づけ、特に注力して推進します。

重点施策 立案の観点

- ・ 将来像実現に資する波及効果の大きい施策
- ・ 庁内組織横断で取り組むべき施策
- ・ 継続的な改善が必要な施策

- 重点施策については、評価指標を設定した上で、進捗と成果の見える化を図り、施策の着実な推進と成果の達成を目指します。



02. 「サービスDX」アクションプラン

「サービスDX」取組一覧

推進方針	取組	重点施策	取組概要	所管組織等
どこからでも簡単にサービスを利用できる環境を整えます	オンライン申請の拡充と利便性向上	◎	区民の利便性向上のため、オンライン申請可能な手続きの段階的拡大を図ります。また、申請項目の精査や、ホームページから申請フォームへの経路をわかりやすく整備するなど、利用しやすいオンライン申請のため改善を行っていきます。	デジタル推進課 他関連各課
	オンラインによる相談の実現		区民が自宅や職場からオンラインで行政相談を受けられる環境を整備し、時間や場所の制約なく、相談サービスを受けられるようにしていきます。	デジタル推進課 他関連各課
わかりやすく、利用しやすいスムーズな窓口を提供します	窓口DXの推進	◎	デジタル化前の段階で業務プロセスの効率化と品質向上を図るため窓口業務改革(BPR)を推進します。BPR後の業務に沿ったシステムを活用し、窓口業務の最適化を図っていきます。	デジタル推進課 戸籍住民課他関連課
	マイナンバーカード利活用の推進		マイナンバーカードを利用したサービスの充実やカードの交付手続きの利便性向上を図り、マイナンバーカードの利活用の推進を図ります。	デジタル推進課 他関連各課
	キャッシュレス化の推進		キャッシュレス決済導入により、利用者の利便性向上を図ります。	デジタル推進課 他関連各課
必要な情報に簡単にアクセスできる環境を整えます	区ホームページの改善		必要な情報に簡単にアクセスできるよう区のホームページの改善を図っていきます。	戦略広報課
	AIチャットボットの利便性向上		区のホームページに導入したAIチャットボットを継続運用し、利用拡大することで、来庁負担を軽減し、区民からの質問への迅速な対応によってサービスの向上を図ります。	デジタル推進課 他関連各課
	SNSを活用した広報の推進		区の公式SNS(LINE、X、Instagram、YouTubeなど)を活用し、さまざまな媒体を通じて効果的に発信し、より多くの区民に情報を届けます。	戦略広報課 他関連各課
	図書館のデジタル化推進		電子書籍の貸出サービスにより、利用者の利便性を向上していきます。	品川図書館
	しながわMAP(統合型GIS)		統合型GISを活用し、様々な地図情報を分野を横断して確認・利用できるようにしていきます。	デジタル推進課 他関連各課
	統計データの可視化		区が保有する各種統計データをグラフや地図などを用いてビジュアル化し、ウェブサイト上で公開。直感的に理解しやすい形で情報提供を行っていきます。	デジタル推進課 他関連各課

02. 「サービスDX」アクションプラン

重点施策1 オンライン申請の拡充と利便性向上

オンライン申請の拡充や継続的な改善を図り、区民の利便性を向上します。

取組概要

- 区民の利便性向上のため、オンライン申請可能な手続きの段階的拡大を図ります。
- 申請項目の精査や、ホームページから申請フォームへの経路をわかりやすく整備するなど、利用しやすいオンライン申請のため改善を行っていきます。
- 区民への影響が大きい事業を選定し、優先的にオンライン化の推進・改善を図ります。

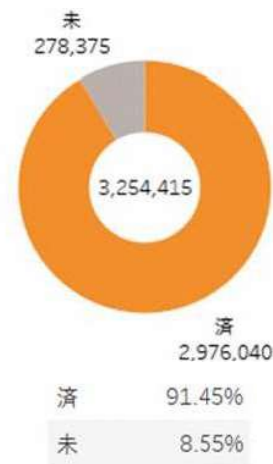
これまでの取組

- 品川区電子申請サービスを導入(2022年度～)
- 以下のとおり手続きのオンライン化を実施(2024年12月現在)

手続き数からみたオンライン化カバー率



申請件数からみたオンライン化カバー率



アウトカム及び評価指標

アウトカムの視点

- 窓口への来庁や待ち時間が不要になることで、区民の時間的・身体的負担が軽減されている
- 申請データのデジタル化により、手作業での入力や書類の仕分けが削減され、処理時間の短縮と人的ミスの減少につながり、行政事務の効率化が図られている

評価指標(2025年度)

- オンライン化手続き件数(目標:650手続き)
- 電子申請を利用した件数(目標:年間76,000件)
- 手続き数からみたオンライン化カバー率(目標:42%)
- 申請件数からみたオンライン化カバー率(目標:92%)

推進スケジュール

	2025年度	2026年度	2027年度
オンライン申請拡充	申請手続き拡充 改善	申請手続き拡充 改善	申請手続き拡充 改善
利便性	利便性への改修/改善 見直	利便性への改修/改善 見直	利便性への改修/改善 見直
優先事業	選定・推進	選定・推進	選定・推進

02. 「サービスDX」アクションプラン重点施策

重点施策2 窓口DX(デジタルトランスフォーメーション)

デジタル技術の活用を前提とした業務改革を進め、窓口サービスを向上します。

■ 取組概要

- デジタル化前の段階で業務プロセスの効率化と品質向上を図るため窓口業務改革(BPR)を推進します。
- BPR後の業務に沿ったシステムを活用し、窓口業務の最適化を図っていきます。



■ これまでの取組

- 窓口体験調査の実施及び、手続チェックシートの作成・試験導入

窓口体験調査とは

区役所での手続を**住民目線で体験**することで普段の業務では気付かなかった課題点を整理し窓口サービスを見直す契機とする。



■ アウトカム及び評価指標

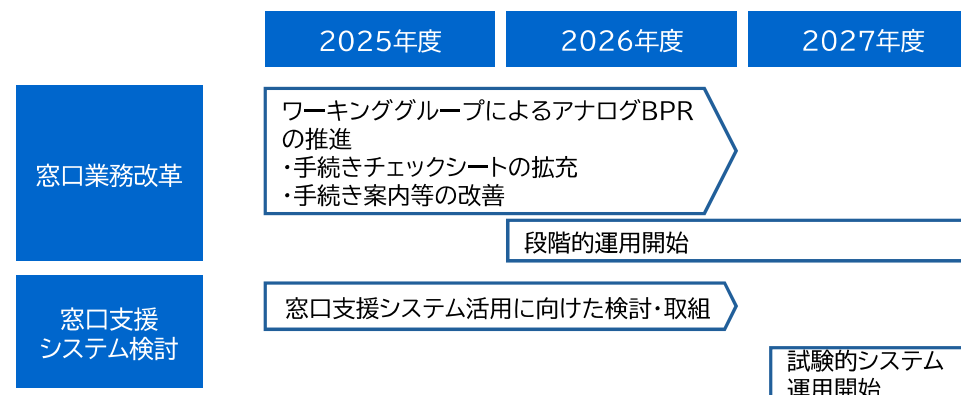
アウトカムの視点

- 窓口での区民の待ち時間が減少し、満足度が向上している
- 申請書類の簡素化、案内の最適化等によりスムーズな申請につながっている
- 業務プロセスが最適化され、内部事務の効率化が図られている

評価指標(2025年度)

- BPRによる改善件数(目標:5件)
- 改善による影響調査(窓口職員へのアンケート等により評価)

■ 推進スケジュール



03. 「地域DX」アクションプラン

「地域DX」取組一覧

推進方針	取組	重点施策	取組概要	所管組織等
地域みんなのための課題解決を推進します	誰ひとり取り残さないデジタル活用の推進	◎	区民誰もがDXの恩恵を受けられるよう、デジタル技術に馴染みの少ない区民への活用支援や、障害者や外国人等多様な立場の区民の視点に立ったデジタルサービスを提供していきます。	デジタル推進課 他関連各課
	住民参加型デジタルプラットフォームを活用した区政推進	◎	時間・場所を選ばず、区民が手軽に利用できるデジタルプラットフォームを導入し、区民の意見・地域ニーズを幅広く収集していきます。	戦略広報課
デジタル活用により魅力的で安心安全なまちをつくります	データ活用による地域課題解決の推進	◎	区が公開するデジタルデータの提供とその活用を推進し、地域に根差す様々な主体が活用することにより、地域課題の解決や新たなビジネス創出による地域の活性化を図っていきます。	デジタル推進課 他関連各課
	区内デジタル商品券を発行		区内で使用できるデジタル商品券を発行し、新たなユーザー層獲得とともに利用店舗を募集、商店街のデジタル化を促進し、振興していきます。	地域産業振興課
	AIオンデマンド交通の実証運行		AIオンデマンド交通を適用することで、交通サービス圏域外地区を解消するとともに、移動に負担を感じる高齢者や障害者、子育て世帯などの移動を支援し、誰もが快適に移動できる交通環境の実現に向けて検証を行っていきます。	地域交通政策課
	災害時避難者把握システムの導入		紙で行っていた避難所での受付を、オンライン化することで、効率化を図っていきます。また、避難所以外で避難を行っている避難者の把握を行っていきます。	防災課
	災害時自動安否確認システムの導入		AIを活用し、事前登録された高齢者救急代理通報システム利用者の電話番号に区からの情報提供および安否確認の問い合わせを一斉発信するとともに回答結果を集約するシステムを導入し、災害時の対応を迅速化します。	福祉計画課
未来のしながわを担う子どもたちを育みます	プログラミング教育の推進		①「プログラミング的思考の育成」、②「プログラムの働きやすさへの気付き」や「コンピュータ等を活用し問題を解決しようとする態度等の育成」、③「各教科の確実な学び」を目標とし、プログラミング教育を実施します。	教育総合支援センター
	オンライン英会話レッスンの実施		タブレット端末を使用し、インターネットを通じて海外にいる講師から指導を受ける同時双方向型のオンライン学習を実施します。	指導課
	GIGAスクール端末等運用		品川区立学校に通う全ての児童・生徒に、1人1台ずつタブレット端末を貸与しています。また、全校の全ての教室には書画カメラ、電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタ、教師用PC、教師用デジタル教科書などのICT環境が整っています。ICTの活用を通して、児童・生徒の学習に対する興味を高め、理解を深めることで、学力向上へとつなげていきます。	学務課
	ICT体験事業の実施		公立保育園に対してオンライン会議システムを利用した国際交流体験を実施することで、子どもたちがICTを体験できる環境を構築し、また世界とつながる体験をし様々な興味関心に繋げることで、保育の質の向上を図っていきます。	保育施設運営課
	児童見守りシステム(まもるっち)の運用		区内在住の児童及び区立小学校・義務教育学校(前期課程)に通う児童に無償で貸与している、GPS・通話機能付き防犯ブザーの運用を行っていきます。	地域活動課

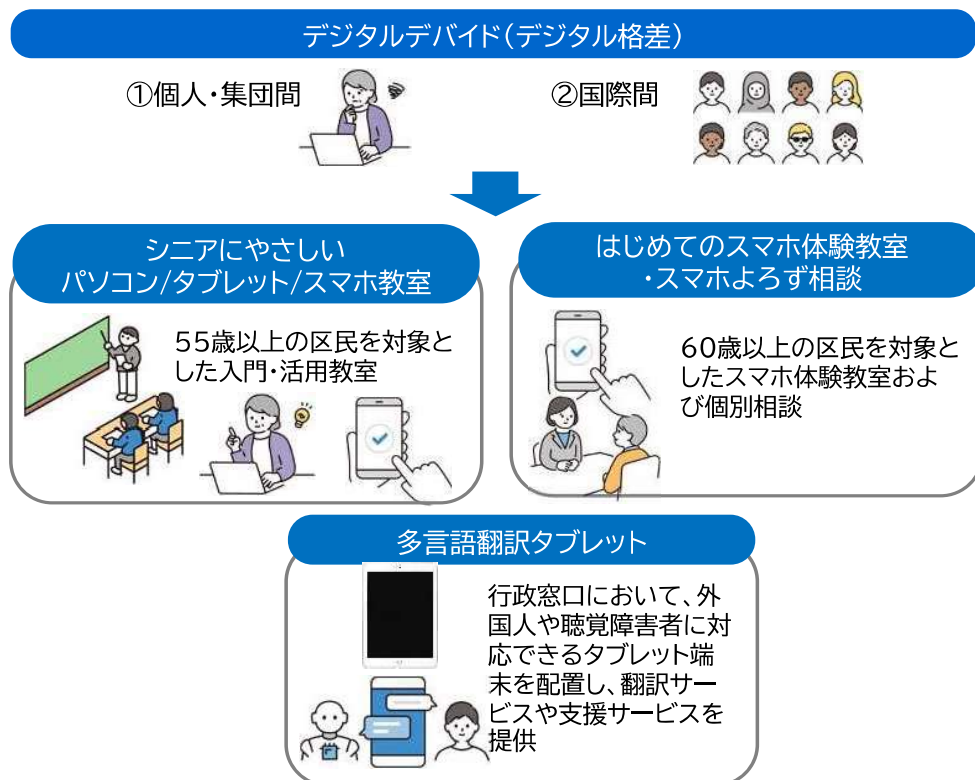
03. 「地域DX」アクションプラン

重点施策1 誰ひとり取り残さないデジタル活用の推進

区民誰もがDXの恩恵を受けられるよう、デジタル活用をサポートする取り組みを進めます。

■ 取組概要

- ・デジタル技術に馴染みの少ない区民のデジタル活用を支援します。
- ・障害者や外国人等多様な区民の視点に立ったデジタルサービスを提供します。



■ 達成目標及び評価指標

アウトカムの視点

- ・デジタル活用をサポートする取組や、支援サービスの提供により、さまざまな立場、環境にある区民誰もが、デジタル技術の活用により恩恵が受けられる

評価指標 (2025年度)

- ・高齢者向けパソコン講座等の実施(目標:延612回)
- ・高齢者向けパソコン講座等の参加人数(目標:延2,112人)
- ・翻訳タブレット利用回数(目標:1,500回)

■ 推進スケジュール

	2025年度	2026年度	2027年度
パソコン/タブレット/スマホ教室	実施	実施	実施
スマホ体験・よろず相談	実施	実施	実施
多言語翻訳タブレット	運用	運用	運用

03. 「地域DX」アクションプラン

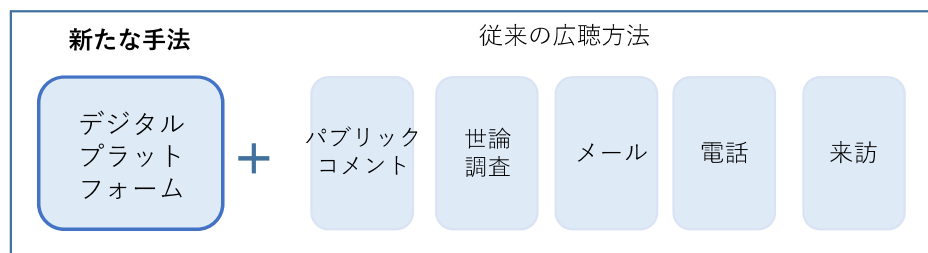
重点施策2 住民参加型デジタルプラットフォームを活用した区政推進

デジタルプラットフォームを活用することで、幅広い区民の皆様からご意見やアイデアをいただき、幅広いニーズを政策立案に活かします。

■ 取組概要

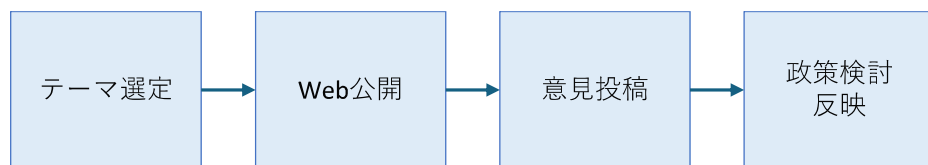
【デジタルプラットフォームとは】

- 分野や目的等に応じて区民、行政、企業など様々な主体を結びつけるためにインターネット上に設けられる「場」のこと



【政策反映までのプロセス】

- 区においてテーマ設定を行い、ウェブサイトにて公開。意見募集ページから意見投稿
- 意見や議論を踏まえ、政策への反映・検討



■ これまでの取組

- 令和6年10月に試行実施として「参加しやすい防災訓練について」をテーマにデジタルプラットフォームを活用した意見募集を行い、100件以上の声を集めることができた。

■ 達成目標及び評価指標

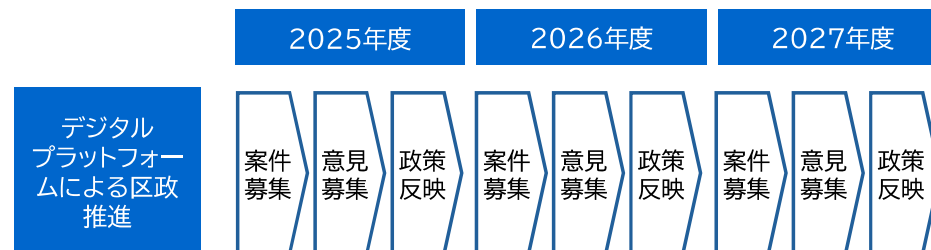
アウトカムの視点

- 区民の政策立案参加機会の拡大と区政への信頼関係が構築されている。
- 若年層から高齢者まで多様な区民が政治に参加している。

評価指標 (2025年度)

- 区民からの意見投稿数(目標:年間100件以上)
- 区民意見を募集する案件(目標:2件以上)

■ 推進スケジュール



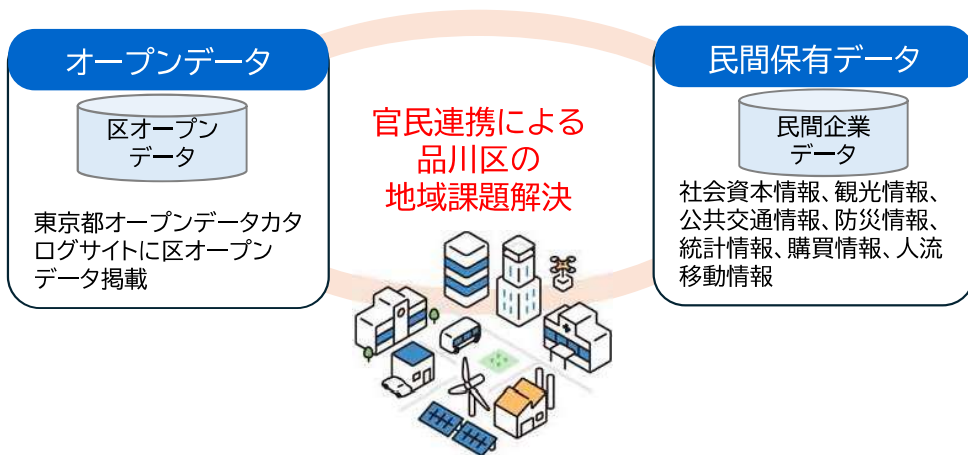
03. 「地域DX」アクションプラン

重点施策3 データ活用による地域課題解決の推進

オープンデータの整備と官民が連携したデータの活用を進め、地域課題の解決を推進します。

■ 取組概要

- ・オープンデータの拡充や質向上(機械判読可能な形式での公開)を進めます。
- ・区職員のオープンデータへの理解促進を図ります。
- ・官民が連携してデータを活用することにより、地域課題の解決を推進します。



■ これまでの取組

- ・東京都オープンデータカタログへのオープンデータ公開
- ・しながわMAPによる位置情報データの公開

■ アウトカム及び評価指標

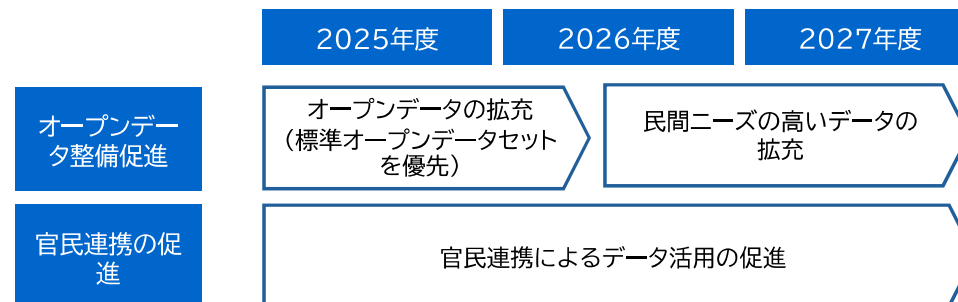
アウトカムの視点

- ・データ活用、デジタル技術の活用により、官民が連携・参画して、地域の課題解決を図る取組や、効率的で計画的なまちづくりが推進されている

評価指標(2025年度)

- ・標準オープンデータセットの整備率(目標:71%)
- ・オープンデータ掲載件数(目標:150件)

■ 推進スケジュール



04. 「シゴトDX」アクションプラン

「シゴトDX」取組一覧

推進方針	取組	重点 施策	取組概要	所管組織等
AIやデジタルツール活用により内部事務の効率化、高度化を図ります	AIや生成AIの業務への利活用推進	◎	行政業務にAI等の先端ICT技術を導入することで、自治体職員の負担軽減や、住民へのサービス品質の向上に繋げていきます。	デジタル推進課 他関連各課
	デジタルツールを活用した業務改善	◎	デジタルツール等の活用およびBPRの推進により、業務改善を図っていきます。	デジタル推進課 他関連各課
	財務会計業務のDX推進		請求プロセスの電子化や内部事務プロセスの最適化により、業務効率の向上と環境負荷の軽減を図っていきます。	デジタル推進課 会計管理室他
	システム標準化	◎	国のシステム標準化に関する政策を踏まえ、システムの標準化やクラウド化を進め、システム間のデータ連携の容易性を確保し、業務の効率化を図るための基盤を整備していきます。	デジタル推進課 他関連各課
	情報セキュリティ水準の維持・向上	◎	高まる脅威や環境変化への対応を図り、情報セキュリティ水準を維持・向上するために、情報セキュリティマネジメントをより一層強固に確立していきます。	デジタル推進課
デジタルを有効活用できる人材育成と組織整備を推進します	DX人材の育成	◎	職員がデジタル技術を内部事務に効果的に活用し、業務効率化を図っていくスキルを習得するための研修を実施していきます。	デジタル推進課
	人材マネジメントシステム		組織の人事データを可視化し、積極的な人材管理を実現していきます。	人事課
データに基づく有効性の高い政策提案と事業検証を推進します	EBPMの推進	◎	データに基づいた意思決定を行い、政策立案や事業評価において客観的かつ効果的な施策を推進していきます。	デジタル推進課

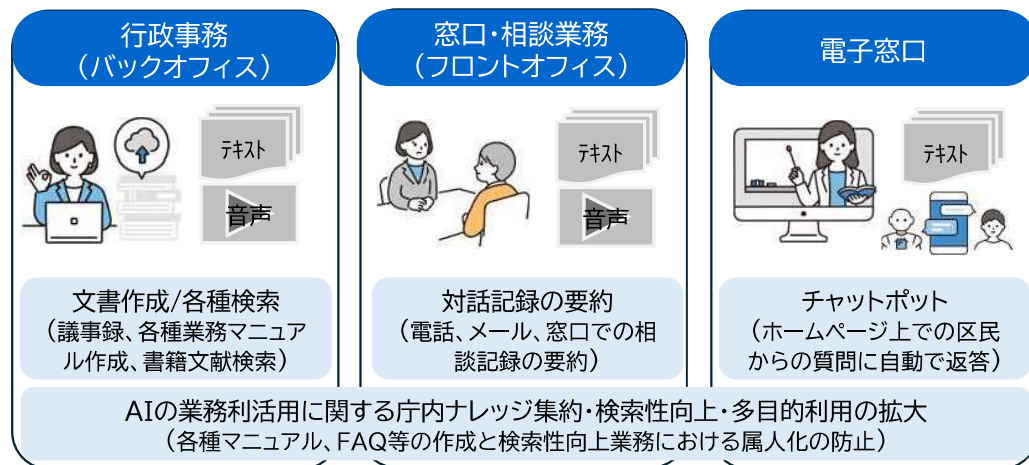
04. 「シゴトDX」アクションプラン

重点施策1 AIや生成AIの業務への利活用推進

行政業務にAI等の先端ICT技術を導入することで、自治体職員の負担軽減や、住民へのサービス品質の向上に繋がっていきます。

■ 取組概要

- 生成AIの活用を推進することにより行政事務(バックオフィス)の業務効率化を図ります。
- 相談記録等へのAIの活用による業務効率化により、区民に向き合う時間を増やし、区民サービスの向上を実現していきます。
- チャットボットによる問い合わせ対応など、AIを活用し区民サービスの質の向上を図ります。



■ これまでの取組

- 自治体向け生成AIを導入し、全庁的に利用を開始(令和5年度～)
- 職員向け生成AI研修を実施(令和5年度～)
- 保育士向け生成AI研修を事業者と協働で実施(令和6年度)
- 生成AIによるデータ分析ツールを事業者と試行開発(令和6年度)

■ アウトカム及び評価指標

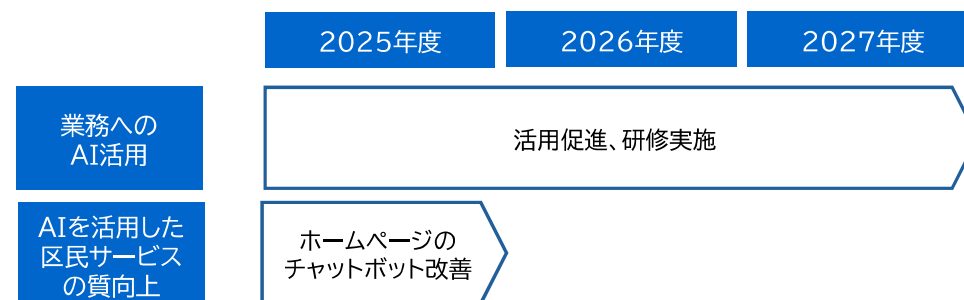
アウトカムの視点

- AI活用により職員の業務効率化が図られている
- AI活用により区民サービスの質の向上が図られている

評価指標(2025年度)

- 生成AIの利用回数(前年度比5%増)
- チャットボットの利用回数(前年度比5%増)

■ 推進スケジュール



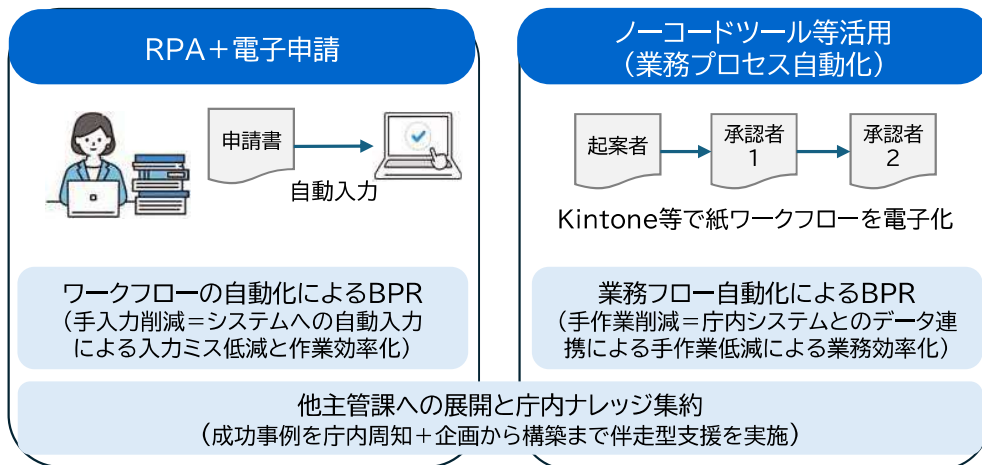
04. 「シゴトDX」アクションプラン

重点施策2 デジタルツール活用した業務改善

デジタルツール等の活用およびBPRの推進により、業務改善を図ります。

■ 取組概要

- 職員がノーコードツールやRPA、電子申請サービスを使える環境を整備するとともに、職員自身がデジタルツールを活用し、業務改善を行うことができるよう研修の実施や支援を行います。
- DX相談窓口を設置し、業務改善を着手しやすい環境を整備します。
- 業務改善の好事例の横展開を行うことで、業務改善に対する機運を醸成します。



■ これまでの取組

- RPA開発の内製化を開始(令和5年度～)
- ノーコードツールを導入し、利用を開始(令和5年度～)
- DX相談窓口を設置(令和6年度～)

■ アウトカム及び評価指標

アウトカムの視点

- 職員が業務改善(BPR)の視点を持ち、業務が改善されている
- 手作業が減少し業務フローが改善されている
- 庁内にノウハウが蓄積され、他課に成功事例が横展開されている

評価指標 (2025年度)

- DX相談窓口への業務改善相談件数(目標:50件)
- デジタルツール活用による好事例創出(目標:5件)

■ 推進スケジュール



04. 「シゴトDX」アクションプラン

重点施策3 システム標準化

国のシステム標準化に関する政策を踏まえ、システムの標準化やクラウド化を進め、システム間のデータ連携の容易性を確保し、業務の効率化を図るための基盤を整備していきます。

■ 取組概要

品川区の対象業務は18業務

■自治体の業務プロセス・情報システムの標準化への取組として、18業務(東京都事務である法人税、固定資産税を除く)が、標準化対象業務となります。

住民基本台帳	国民健康保険	生活保護	戸籍
選挙人名簿管理	国民年金	健康管理	戸籍附票
個人住民税	後期高齢者医療	障害者福祉	就学
印鑑登録	軽自動車税	児童扶養手当	介護保険
子ども子育て支援	児童手当		

■ これまでの取組

令和6年度に「住民基本台帳」「国民健康保険」「選挙人名簿管理」「国民年金」「印鑑登録」の5業務の標準準拠システムへの移行が完了しています。

■ アウトカム及び評価指標

アウトカムの視点

- ・システムの標準化が進み、システム間のデータ連携の容易性が確保され、業務の効率化が図られている。

評価指標(2025年度)

- ・移行業務数(8業務)

■ 推進スケジュール

	2025年度	2026年度	2027年度
システム標準化	8業務移行	2業務移行	3業務移行

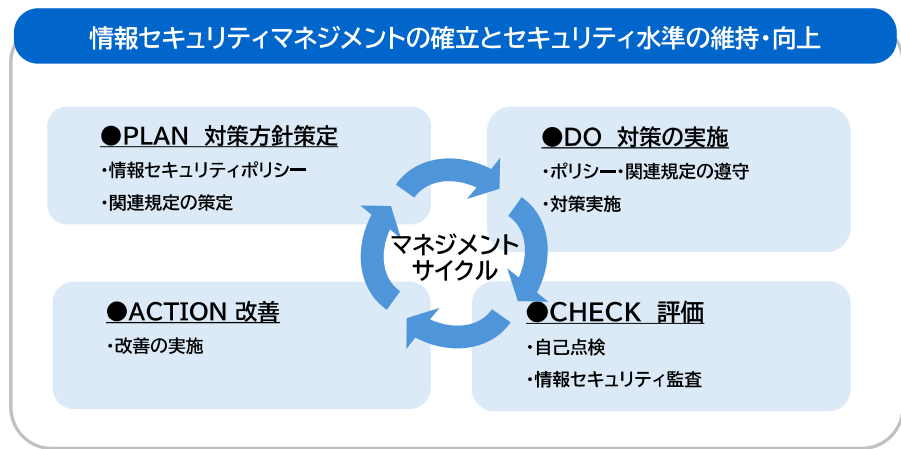
04. 「シゴトDX」アクションプラン

重点施策4 情報セキュリティ水準の維持・向上

制度面、体制面、技術面から情報セキュリティの確保を推進し、デジタル技術を活用した行政サービスを安全・安心かつ安定的に提供します。

取組概要

- 高まる脅威、政策動向や技術の進展等の環境変化に対応するために、情報セキュリティポリシーや関連規定の見直し、改定を行います。
- 情報セキュリティ自己点検や監査等による評価と継続的な改善を行い、情報セキュリティマネジメントサイクルを確立します。
- 外部専門人材の活用、インシデント対応機能の確保、職員への研修・訓練を通じて、全庁的な情報セキュリティ体制の強化を図ります。



アウトカム及び評価指標

アウトカムの視点	- 情報セキュリティリスクの低減が図られている - 職員のセキュリティ意識が向上している - 区民がデジタルを活用したサービスを安心・安全に利用している
評価指標 (2025-2027)	- セキュリティインシデント発生件数の低減 - 監査対象部署数(3年間で100%) - セキュリティ研修実施部署数(100%)

推進スケジュール

	2025年度	2026年度	2027年度
情報セキュリティ関連規定	情報セキュリティポリシー・関連規定改定	情報セキュリティポリシー・関連規定改定	情報セキュリティポリシー・関連規定改定
情報セキュリティ監査	内部監査	内部監査	内部監査
情報セキュリティ研修	セキュリティ研修実施	セキュリティ研修実施	セキュリティ研修実施

04. 「シゴトDX」アクションプラン

重点施策5 DX人材の育成

職員がDXに取り組み「区民(利用者)が便利」に、「シゴトが生産的」になっていることを目標とし、DX人材の育成を行っていきます。

■ 取組概要

- ・ DX人材育成方針に基づき、体系的・計画的にDX人材の育成を図ります。
- ・ DX人材育成方針にて整理をしたDX推進の基礎となるマインドセットおよび5つの専門スキルに基づき、研修を実施します。
- ・ DX関連情報の発信などDX推進による業務改革に前向きな文化醸成を図ります。



■ これまでの取組

2024年度実施研修

- ・ ITリテラシー研修
- ・ データ利活用研修
- ・ ツール操作体験
- ・ BPR研修、サービスデザイン研修ほか

■ アウトカム及び評価指標

アウトカムの視点

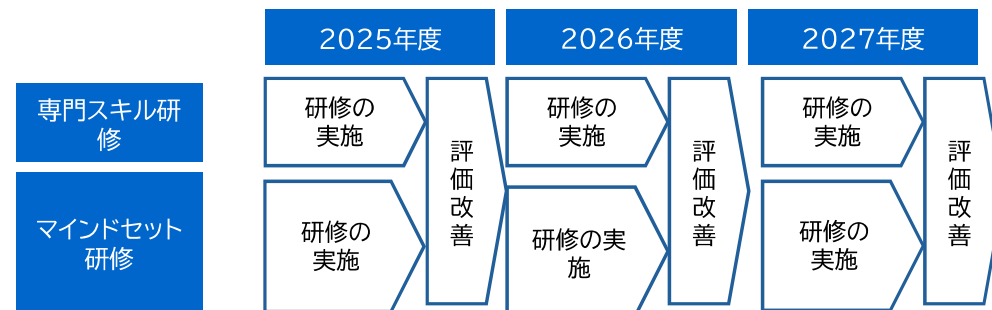
- ・ 職員がDXに関する能力をのばし、創造的な業務を行っている
- ・ 職場においてDX推進による業務改革に前向きな文化が醸成されている
- ・ 区民(利用者)が利便性の高いデジタルサービスを安全に利用している

評価指標

職員に対するアンケートにより評価(目標値:5段階評価平均3.5以上)

- ・ 業務の効率化が進んでいると感じる職員の割合
- ・ 職場でDXに着手しやすい雰囲気があると感じる職員の割合ほか

■ 推進スケジュール



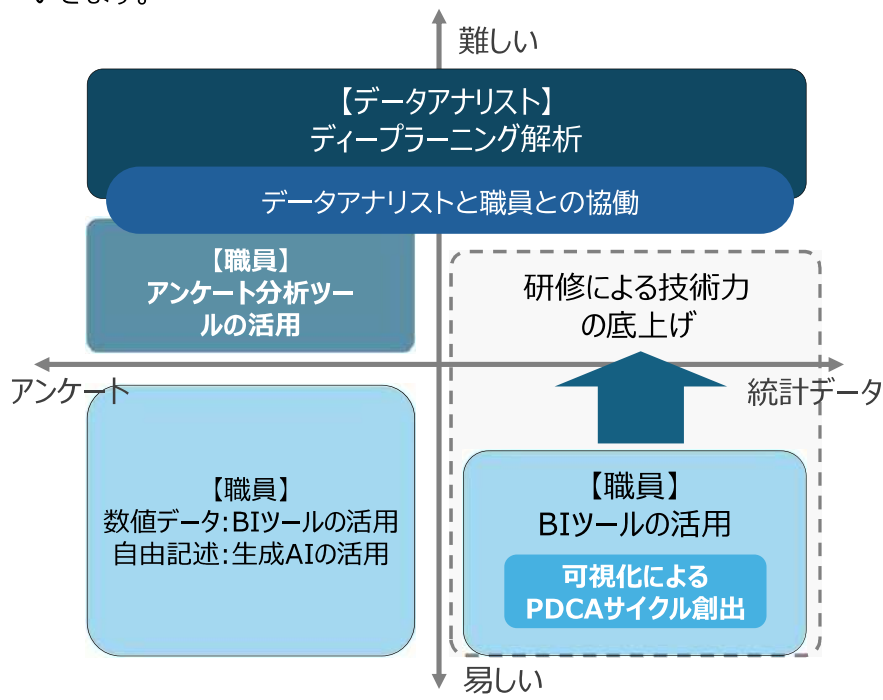
04. 「シゴトDX」アクションプラン

重点施策6 EBPMの推進

データに基づいた意思決定を行い、政策立案や事業評価において客観的かつ効果的な施策を推進します。

取組概要

- BIツール等の活用により職員自身がEBPMの担い手となれるよう支援・推進をしていきます。
- 高度な分析については、データアナリストと協働し、EBPMの推進を図っていきます。



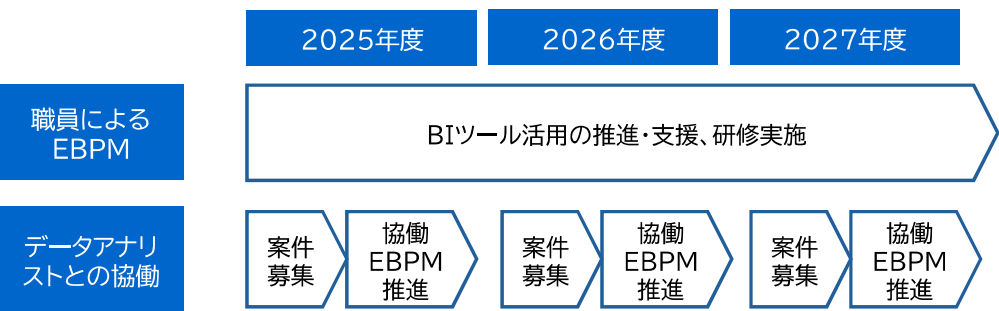
これまでの取組

- BIツールの導入および研修(令和5年度～)
- データアナリストとの協働推進(令和5年度末～)

アウトカム及び評価指標

アウトカムの視点	- 職員が担当業務に関して自ら可視化を行い、PDCAサイクルが回っている - データに基づく政策立案が文化として根付いている
評価指標	- データ利活用による好事例創出(目標:5件) - データアナリストとの協働案件(目標:3件)

推進スケジュール



用語集

用語	解説
AI (エー・アイ)	Artificial Intelligenceの略。人工知能。言語の理解や推論、問題解決などの知的作業を行うことができる。
BIツール (ビー・アイ)	BIは、Business Intelligenceの略。組織が持つデータを分析・可視化して、経営や業務に活用する取り組みのこと。BIツールはそのためにデータを収集・分析・加工し、経営上の意思決定等を支援するソフトウェアのこと。
BPR (ビー・ピー・アール)	Business Process Re-engineeringの略。業務プロセスを、顧客に対する価値を生み出すための活動の積み重ねとして再設計し、それに合わせて職務や組織、業務手順、規則などを刷新すること。
DX (ディー・エックス)	Digital Transformationの略。デジタル技術を活用して、業務プロセス、サービス提供方法、組織文化などを根本的に変革し、サービスの質と効率性を高めること。サービスの向上、業務効率化、新たな価値創造、さらには政策立案の高度化などを目指す。Transformationは「変形」や「変革」の意。英語圏では接頭辞“trans-”を「X」と簡略表記することが一般的。
EBPM (イー・ビー・ピー・エム)	Evidence-based Policy Makingの略。証拠(エビデンス)に基づく政策立案。政策の目的を明確化し、その達成のために最も効果的な行政手段を特定するため、科学的手法を用いてデータや研究結果などの客観的証拠を系統的に収集・分析する。これにより政策の論理的根拠を明確にし、政策の基本的な枠組みを構築する。さらに、政策実施後の効果測定と評価を行い、継続的な改善を図る取組のこと。
OCR (オー・シー・アール)	Optical Character Recognition/Readerの略。光学文字認識。手書きや印刷された文字を、スキャナやデジタルカメラで読み取り、コンピュータが利用できるデジタルの文字コードに変換する技術のこと。これに人工知能を活用して精度や汎用性の向上を図ったものを特にAI-OCRと呼ぶ。
RPA (アール・ピー・エー)	Robotic Process Automationの略。人がパソコンで行うデスクワーク(主に定型作業)をソフトウェアのロボットが自動化する技術のこと。
サービスデザイン (service design)	サービスにおける課題を、利用者の目線で解決し、よりよい状態に変化させるための考え方。利用者がどのように感じ、どのように振る舞うかを調査・分析し、その結果に基づいて利用者の体験(UX)全体をデザインすることが重要とされる。
情報セキュリティポリシー	組織が保有する情報資産の機密性、完全性及び可用性を維持するために実施する情報セキュリティ対策の基本方針や対策の基準のこと。品川区では、品川区情報セキュリティ基本方針及び品川区情報セキュリティ対策基準として定めている。
ノーコードツール	プログラミングの知識やスキルがなくても、システムやアプリケーションの構築ができるツール。業務を理解している職員自身が、実際に業務で利用するシステムやアプリケーションを開発することで、業務の見える化・効率化、システム導入にかかる工数や経費の削減、スピード開発を実現することができる。
DX推進委員	DX推進による区民サービス向上を目的として、各所属に配置される職員であり、業務課題の解決に取り組む。
統合型GIS(ジー・アイ・エス)	GISはGeographic Information System(地理情報システム)の略。統合型GISは、自治体内の複数の部署間で地理情報データを横断的に共有・管理し、統合的に活用するシステム。

品川区DX推進基本方針(暫定版) パブリックコメント～ご意見と区の考え方～

実施期間:令和7年2月1日から令和7年2月28日まで

※ご意見については、趣旨を損なわない範囲で要約しています。

1. サービスDXに関連するご意見

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
1	暫定版P2に「利用者起点でのサービス改革の必要性」、P4に「必要な情報に簡単にアクセスできる環境を整えます」とあります。一方でHP上、パブリックコメントについては、トップページ > 区政情報 > 広聴・情報公開 > パブリックコメント と辿る必要があり見つけづらいため、トップページにバナーを入れるなど、容易にアクセスできるようにして頂きたいです。	必要な情報に簡単にアクセスができるようホームページの改善に努めてまいります。
2	区ホームページが見つらく、必要な情報が見つけない。DX推進の第一歩として区ホームページを見直していただきたい	

2. 地域DXに関連するご意見

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
1	デジタル庁デジタル推進委員は地域の高齢者やハンデのある人のデジタル利用を支援している。品川区在住のデジタル推進委員(推定100人以上いる)に高齢者やハンデのある人のデジタルの悩みと解決方法を聴取し課題を整理すべきである。その上でDX推進策を作ればより現実的、効果的な手打てる。 ちなみに私はデジタル推進委員を拝命しており、地域のかたに役に立つようほぼ毎日活動中です。必要あれば私がデジタル委員をまとめて上述のアクションをボランティアで引き受けます。	品川区DX推進基本方針に記載の「デジタル化推進委員」は、名称がデジタル庁の「デジタル推進委員」と類似していますが、両者は異なる取り組みです。当区の「デジタル化推進委員」は区独自の施策で、部署でDX推進の中核を担う区職員を指し、庁内向けの業務のみを対象としています。(暫定版ではデジタル化推進委員としておりましたが、DX推進委員に改称し掲載を行う予定です。) 当区は、区民誰もがDXの恩恵を受けられるDX推進を重要課題と位置付けています。デジタルデバイ解消の一環として「パソコン・タブレット・スマホ教室」や「スマホ体験教室・よろず相談」などの事業を実施しています。今後も、誰一人取り残さないデジタル社会の実現に向けて、積極的に取り組んでまいります。いただいたご意見は、貴重なご提案として、参考とさせていただきます。
2	P5に「防災情報等の収集・分析・伝達の仕組みを拡充し、安心安全なまちづくりを推進」とありますが、新住民が多くなり、過去の五反田駅周辺での浸水などを知らない人が増えています。区民の防災意識を高めるため、過去の大水害等の被災内容をわかりやすく伝えることに取り組んで頂きたいです。	防災意識向上のための過去の災害情報の活用は、非常に重要な視点だと認識しております。現在、ホームページにおいて、「浸水に関するハザードマップと浸水実績」「品川区町別浸水実績一覧表」掲載しております。引き続き防災意識向上のためのデジタル技術を活用することで防災意識を高め、より安心安全なまちづくりを推進してまいります。
3	P5「デジタル活用により魅力的で安心安全なまちをつくります」の中に「データ活用、デジタル技術の活用により、官民が連携・参画して、地域の課題解決を図る取組や、効率的で計画的なまちづくりを推進」とあります。区が持っているデータをオープンデータ化して区民が容易にアクセスし生活や活動に役立てられるようにして頂きたいです。	本区では、人口動態などの基礎的なデータを区ホームページで公開するとともに、東京都のオープンデータポータルサイトにもデータを提供しております。東京都へのデータ提供により、23区間での比較分析が可能となり、広域的な視点での政策立案や区民の皆様の利便性向上に寄与していると考えております。引き続き、オープンデータの拡充に努めるとともに、アクセスしやすい環境整備を進めてまいります。
4	オープンデータについての記載が見当たらない。お隣の大田区ではホームページで公開しており、「オープンデータの利活用を進めることにより、官民の協働による地域課題の解決や、新産業の創出・地域経済の活性化、行政の透明性・信頼性の向上が期待されます」とある。品川区もDXを推進するのであれば、個人情報に関わらない部分でのオープンデータを、東京都のサイトではなく区ホームページ内で独自に公開していただきたい	

3. シゴトDXに関連するご意見

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
1	それぞれのdx方針について素晴らしいと感じました。 追加でぜひお願いしたいこととして以下を提案いたします。 シゴトdxについて、様々なdxを考える上で、若手職員がせっかく良い提案を考えても品川区役所内の各所属管理職の意識や意思決定が実現を左右すると考えます。そこで、管理職について、意識改革や積極的な意思決定のため、一定の強制力を持たせたいと考えてほしいです。具体的には、dx実現結果を管理職の人事評価に取り入れることをお願いしたい。そして、dxを進められなかった管理職には、若手から〇〇という提案があったがなぜできなかったのか、理由を書いたコメントを所属毎にまとめてホームページで公表することをお願いしたいです。	DX推進における管理職の重要性について、貴重なご意見ありがとうございます。当区では、管理職の職改革と積極的な関与が不可欠だと認識しております。若手職員からの提案を積極的に取り入れる、土づくりなどを積極的に進めていきたいと考えております。なお、DX推進状況の人事評価への反映やホームページでの公表については、貴重な参考意見として承ります。
2	P6に、「AIやデジタルツール活用により内部事務の効率化、高度化」の中に、「AIを活用し業務効率化と業務精度の向上を実現」とあります。先進的な企業は、自社データベースと連携させて、RP AI・自動化をキックさせる処理ができるようにしているようであり、そうした事例を参考に効率化に取り組んで頂きたいです。また、AIは自動化効率化だけでなく、ヒトとヒトの間、区と区民との間に、価値をどうつくるか、お互い理解をどう深めるかという所に活用できると思いますので、そうした取組を行って頂きたいです。さらに、AI技術をキャッチアップして使いこなすというより、品川区の持っている独自性や創造性と、AI技術を掛け合わせることで、即ちAIを触媒として活用することで、他の自治体がキャッチアップできないソリューションが出て来ると思いますので、そのような点を盛り込んで頂きたいです。	ご指摘いただいた先進事例も参考にしながら、本区の実情に合った形で活用を検討してまいります。また、AIの活用については、単なる業務効率化にとどまらず、区民サービスの質的向上など、多様な可能性を秘めていると考えております。現段階では基本的な業務改善を着実に進めることを優先し、段階的に活用範囲を広げていく方針です。 今後とも区民の皆様のご意見を参考にしながら、本区の特性を活かした効果的なデジタル化を推進してまいります。

4. 全般・その他ご意見

No.	ご意見(要旨)	区の考え方
1	暫定版P2に基本方針策定の背景、P3に3つの視点によるアプローチと将来像がありますが、ここに記載のない視点として、品川ブランドをデジタルを活用して対外的に発信し、品川の価値を高めていくことも盛り込んで頂きたいです。デジタルの力で、人々の感情に訴えて、品川区が区民にとって暮らしやすいだけでなく、世の中に魅力あふれるまちとして知られることも大事な要素と考えます。	令和6年度から、さらなる区の価値を向上させるため、区民の理解や共感のもと、未来に向かって情熱的な価値を創り、区のイメージを高める都市ブランディング事業を開始しています。デジタル技術の活も検討し、区のブランド価値向上を図ってまいります。
2	品川区DX推進基本方針は、普段、デジタル機器やIT環境にない人たちから、おおむね区がどのような方針をもってDXに取り組もうとしているかを理解する上で、わかりやすい内容となっていると思います。 一方で、令和元年度DX推進指標(経済産業省)に沿った内容だと思いますが、DX推進基本方針「02将来像と実現に向けた基本方針」の将来像と各基本方針に、DX推進指標の指標項目おそらく「DXを実現する上で基盤となるITシステムの構築に関する指標項目」との関連性を明示すると、官民共創していくうえで、課題の抽出と解決に向けて、共通のトラックを走ることができないのではないかと思います。	本区では、人口動態などの基礎的なデータを区ホームページで公開するとともに、東京都のオープンデータポータルサイトにもデータを提供しております。東京都へのデータ提供により、23区間での比較分析が可能となり、広域的な視点での政策立案や区民の皆様の利便性向上に寄与していると考えております。 ご指摘のとおり、オープンデータの推進はDX計画において重要な要素であり、行政の透明性向上や市民協働による地域課題解決に資するものです。今後は、オープンデータの公開範囲を拡大し、より使いやすい形式での提供を進めてまいります。
3	DX推進基本方針「03推進に向けて」の推進体制で、文章上では、「CIOを中心に全庁横断的なDX推進体制を整え、」とあるが、組織図を見ると組織上の職制意思決定構造のままで、部門を超えた横断的な判断・提案ができるような仕組みになっていないように見える。 「DX推進戦略会議」に、デジタル化推進委員が組織上の職制構造の外側からの推進できる仕組みでない、横断的な推進は不可能なように思える。 また、DXは、IT技術を用いて「どんなデータがどこにあるか判っている人(おそらく職制上上位者)」と「データを利用する人(職制上上位者)」を結びツールに過ぎず、組織の意思決定を変更するものではないので、推進体制を職制上の階層に連関させる必要はないものと思う。	本区のDX推進体制については、CIOを中心とした全庁横断的な推進を基本としつつも、組織運営の効率性と意思決定の迅速性を両立させる必要があると考えております。 DXの本質は、ご指摘のとおり、組織内のデータや知識を効果的に結びつけ、業務改革を実現することにあります。そのため、職制上の階層にとらわれない柔軟な情報共有と提案の仕組みについても、今後さらに充実させてまいります。
4	品川区DX推進基本方針の策定にあたって、DX推進した成果としてのDX化の定性的、定量的な評価をする項目がないが、令和元年度DX推進指標(経済産業省)にDX推進の成熟度を評価する考え方があり、これを参考に、年度ごとの推進活動の評価を行っていくべきではないか。 特に、定量的に評価がなされれば、必要な予算付けの根拠にもなり、区内のDX化が進み見やすいものではないかと思う。	本区では、DX推進の成果の可視化は重要であると認識しております。ご指摘のとおり、経済産業省の「DX推進指標」のような定性的・定量的な評価の枠組みを活用することは、DX推進の進捗状況を客観的に把握し、次の施策につなげる上で有効な手段であると考えております。 基本方針では評価の枠組みについて詳細な記載はありませんが、今後策定するアクションプランにおいて、具体的な評価指標を設定し、定期的な進捗管理を行ってまいります。
5	①情報公開請求は未だに電子申請できないのか、②できないのであれば理由は、③情報公開申請の窓口は未だに各課が担っているのか、④情報公開請求のDX化の予定は	情報公開請求は令和6年4月より品川区電子申請サービスにて申請をいただけます。なお、電子申請受付窓口は戦略広報課となります。